

第5回 JESUS (Japanese skill education for young gastroenterological Surgeons) を開催して

広報委員会・JESUS 実行委員会 委員長 猪股 雅史

1. はじめに

JESUS は日本消化器外科学会が最も力を入れている取り組みの一つである。全国の研修医の皆さんに外科医の魅力ややりがいをもっと知っていただくために、初代委員長の夏越祥次教授（鹿児島大学）のリーダーシップのもと5年前より始まり、今回は5周年の記念開催となった。希望者が年々増加していることから、今年から募集数を増やし、会場もこれまでの熱海から愛知県豊橋市の大型施設に移し、2019年9月20日（金）21日（土）の2日間、「ホテルシーパレスリゾート」で開催した。JESUS の3つの特色：「外科基本的手技がじっくり学べるプログラム企画」「日本を代表する教育熱心な講師陣25名」「将来の進路や人生についても深く語り合える合宿型セミナー」を最大限に活かし、全国から117名の研修医が参加し、講師陣、運営事務局とともに熱い2日間を過ごしたので報告する。

2. 実績調査 - 消化器外科医は増えたか？

過去4回のJESUS参加者の日本消化器外科学会への入会状況を調査した。総計410名のJESUS参加者のうち、新入会員数は151名（36.8%）であった。参加者の中には、現時点でまだ研修医である方、また専攻医修練の途中に入会する方もいるので、今後の入会率はさらに上昇するものと期待される。

	研修医参加者数	JESUS 後の本会入会者
第1回（2015年）	100	54
第2回（2016年）	104	44
第3回（2017年）	105	37
第4回（2018年）	101	16
合計	410	151

2019年9月26日現在

3. 開催までの準備

本会の開催に際し、全国から若手外科医の指導力に定評のある講師陣として、広報委員会のメンバーである國崎主税先生、瀧口修司先生、小林美奈子先生、又木雄弘先生、丸橋 繁先生、柴田 近先生に加え、実行委員として岩下幸雄先生、衛

藤 剛先生、木村英明先生、土川貴裕先生、二宮 致先生、野原京子先生、盛 真一郎先生、和田範子先生、協力講師として伊藤悠子先生、大井正貴先生、亀田千津先生、高橋広城先生、武内 裕先生、田島正晃先生、中平 伸先生、成宮孝祐先生、森和彦先生、鷲尾真理愛先生の総勢 24 名を招聘した。

広報活動としては、ホームページの更新を 2019 年 2 月に行い、第 4 回 JESUS ムービーの追加と 2019 年開催の告知を行った。広報委員会・JESUS 実行委員会合同会議は第 119 回日本外科学会定期学術集会会期中（2019 年 4 月 18 日大阪）に開催し、実行委員メンバーの紹介やプログラムの検討、スケジュール確認を行った上で参加募集を開始した。第 2 回広報委員会・JESUS 実行委員会合同会議は第 74 回日本消化器外科学会総会会期中（2019 年 7 月 18 日東京）に開催し、新たな協力講師メンバーの紹介やスケジュール確認を行った。ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社の共催により、縫合セット、ドライボックス、VR シミュレーターを、また学会事務局のご尽力によって腸管吻合用のブタ腸管を準備していただいた。セミナーに関して、今年も新進気鋭の 4 名の演者、黒川幸典先生（大阪大学消化器外科；大鵬薬品工業株式会社共催）、宮本裕士先生（熊本大学消化器外科；日本化薬株式会社共催）、海道利実先生（京都大学肝胆膵移植外科；株式会社ツムラ共催）、今村 裕先生（がん研有明病院食道外科；ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社共催）に依頼し、快諾を得た。

4. 開催前日（2019 年 9 月 19 日）

講師陣、運営事務局、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社スタッフは前日に豊橋入りして準備を行った。会場変更の影響はあまりなく、機器の搬入、設営はこれまでの経験を活かしスムーズに行われた。また、縫合結紮コンテスト用の大型スクリーンも会場に運び込まれ、準備は万端に整った。夕方の打ち合わせでは、各ブースにおける指導すべき事項や実技を確認した。

5. 開催日（2019 年 9 月 20 日、21 日）

【1 日目】

10 時 30 分の受付開始とともに、受講者が次々と会場に到着した。当日緊急で参加できなくなった 1 名を除く 117 名の受講者が受付した。11 時 40 分には 2 階コンベンションルームにおいて班毎にテーブルに着席し、昼食を取りながら自己紹介を行った。開会式の後、20 班を 4 グループに分け、腸管吻合、トレーニングボックス、シミュレーター、セミナーの受講をそれぞれ 1 時間行った。

- 1) 腸管吻合では、Albert-Lembert 法による模範ビデオを見学した後に、豚の腸管を用いて吻合を行なった。このセッションでは、2 年連続で全受講生の

吻合成功率 100%（リークなし！）を達成し、充実感が大きい実習であった。

- 2) トレーニングボックスでは、初めて腹腔鏡鉗子を手にする先生から、日頃の練習の成果もあってすでに達人の域に達している先生まで技術レベルの差が幅広く、それぞれの程度に応じて熱い指導が行われていた。受講者は非常に熱心に講師の指導を受けながら実技に取り組んでいた。夕食までの約2時間の空き時間にも翌日のコンテストに備えて、自主練習を行う受講者が大勢いた。
- 3) シミュレーターでは、各班に2台ずつのシミュレーターを用意し、縫合結紮の練習の後、モデルに対して一人一針ずつの縫合結紮を行なった。今回は縫合の正確性を客観的に測定する最新機械も導入され、各個人とグループの評価が点数化された。結果は夜の部で報告され、25点満点（合格基準10点）で20点を超えるハイレベル者が続出し、レベルの高さが伺えた。
- 4) セミナー受講では、新進気鋭の日本を代表する講師の先生方の講演に熱心に耳を傾けた。昨年までの昼座布団では睡魔に勝てない受講生も多くいたが、今回はほとんどそのような状況は見られず、質問も多く出て活気のあるセミナーとなった。

17時から、協力講師の中平 伸先生のドローン技術を用いた全体記念撮影を行なった（図1）。受講生や講師を交えた総勢150名の迫力ある動画は、後日ホームページに公開予定ですので、ぜひご覧いただきたい。

夕食時には、今年も三重大学から樽酒「半蔵」をはじめ、講師陣の地元のお酒が振る舞われ、美酒に舌鼓を打った。JESUS 経験者の先輩からの特別講演では OB 夏越啓多先生（済生会福岡総合病院）、OG 高山真秀先生（NTT 東日本関東病院）に講演していただいた。自分がどのような気持ちでJESUSに参加し、どのように感じ、消化器外科医になったのか、そして、どのような未来像を描いているか、などの非常に内容のある講演で、受講生たちも真剣に聴講している姿が印象的であった。特に高山真秀先生は女性消化器外科医の立場から、また夏越啓多先生は熱い思いを自作ムービーとして披露していただき、会場から大きな拍手を浴びていた。VRシミュレーター高得点班の表彰、又木雄弘先生のクイズ大会では、今年も大いに盛り上がり、楽しいひと時であった。その後、会場を移動して恒例のソーシャルミーティングが行われた。講師陣と受講者は浴衣姿で、夜遅くまで交流を深めた。この場においては出身大学、年齢、男女、班の垣根を超えた交流が行われ、多くの出逢いがあった。

【2日目】

朝7時から朝食。チェックアウトを済ませた後に、9時から恒例のトレーニングボックスコンテストが行われた。受講者は練習の成果を十分に発揮し、非常にハイレベルなコンテストとなった。グループ予選を勝ち抜くには1分を切る技術が必要であった。予選を勝ち抜いた12名により準決勝、決勝が行われた。優勝：杉原貴仁先生（研修医2年目、香川県済生会病院）、準優勝：太田雅斗先生（研修医2年目、岐阜市民病院）、3位：中島拓哉先生（研修医2年目、岐阜大学医学部附属病院）と白尾貞樹先生（研修医2年目、最速タイム40.40秒）には豪華な景品が送られた。

決勝戦では手技を大型モニターに写しながら受講生みんなで見えて勉強した。

閉会式では、各班の代表から一言ずつ今回の感想を述べていただき、口々に講師陣や運営事務局の方々、共催のジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社の方々へのお礼の言葉が聞かれた。台風の影響で奄美大島へ帰れないかもしれない鹿児島からの受講者の先生の帰路を心配しつつ、第5回JESUSの全日程を終了した。

6. アンケート結果

アンケート調査を行い、116名から回答を得た（回答率99%）。回答者の内訳は初期研修医1年目：58名（50%）、2年目58名（50%）。男性86名（74%）、女性30名（26%）であった。開催時期は適当112名（98%）、不適当2名（2%）との回答があった。

プログラムに関しては、昨年に引き続き腸管吻合において最も多くの参加者が「よかった」と回答した（図2）。また、消化器外科を専攻する気持ちになった参加者113名（97%）、今回のJESUSがあなたの今後に役に立つと回答した参加者116名（100%）であった（図3）。

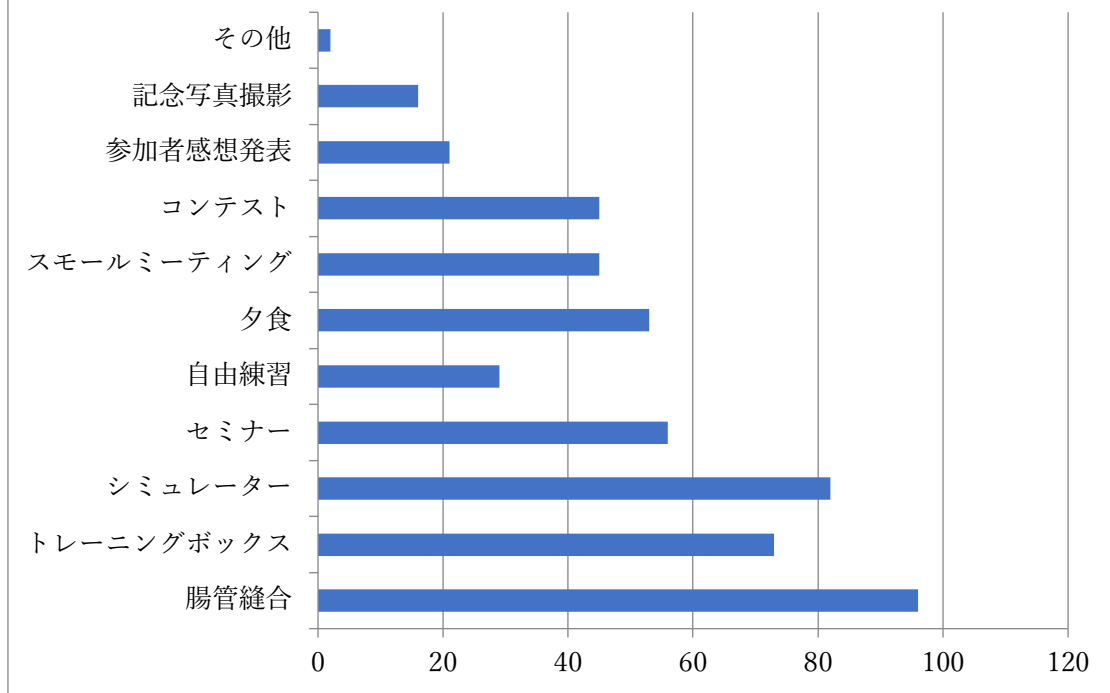
7. おわりに

第5回JESUSは、募集人数を増やし、参加者の要望を取り入れる形でプログラムに創意工夫を加え開催し、参加者の高い満足度を示すことができた。今回受講した117名の研修医諸君にとって、本JESUSがかけがえのない素晴らしい経験となり、消化器外科医の魅力に惹かれ、一人でも多くの参加者が消化器外科の扉を開いて頂ければ幸いに思う。最後に、本企画の成功はひとえに講師陣の熱心なご指導のおかげだと考える。また運営面で絶大なご尽力いただいた（株）ジョンソン・エンド・ジョンソンをはじめとした共催企業の方々、そして1年前より綿密に準

備をすすめていただいた日本消化器外科学会事務局の皆さまに心より深く感謝の意を述べたい。



4. 良かったプログラム（複数回答可）



8. 今回のJESUSがあなたの今後

